

みんなの野尻湖 美しい姿を次世代に

—第6期野尻湖水質保全計画について—

長野県

野尻湖のあらまし

野尻湖は長野県北部の上水内郡信濃町にあり、別名を芙蓉湖（フヨウコ）とも呼ばれる県内最大の貯水量を誇る天然湖で、妙高戸隠連山国立公園内に位置し、周囲の山々とともに優れた自然景観を形成しています。また、古くから国際的な観光地として知られ、文化観光資源としても重要な役割を果たしています。

野尻湖の起源は、斑尾山から野尻湖へ向かう古い谷であったところに黒姫火山の噴出物が流れ、水をせき止める形で湖の原型ができあがり、その後湖の西側が隆起する構造運動によって、現在の野尻湖ができあがったと考えられています。

野尻湖は、ナウマンゾウやオオツノシカの化石、旧石器等が発掘されていることでも有名で、約4万年前には湖を「狩り場」として生活していた人たちがいたと推定されています。湖の周辺には遺跡も多く、春には野尻湖での発掘調査が定期的に行われており、その研究成果は、野尻湖ナウマンゾウ博物館で見ることができます。

湖水は、発電、水産業、かんがい期の農業用水等に使われています。また、ヨットや釣り、夏には水浴なども楽しむことができます。



野尻湖の風景



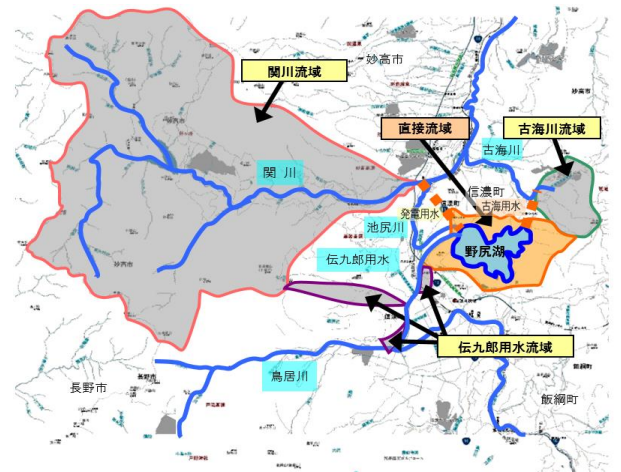
ナウマンゾウの模型

野尻湖の概要

野尻湖の水は、流入河川の他にも、関川からは東北電力の揚水発電、古海川からは古海用水を經由して人工的に導水されています。野尻湖の流域面積は12.9 km²ですが、これらの導水路によって間接的に流域となっている地域（間接流域）を含めると、185.3 km²になります。池尻川が唯一の流出河川となっています。

野尻湖は青く澄んだ湖水が特徴の湖でしたが、流域の社会経済活動の発展に伴う富栄養化の進行により、昭和63年の夏に植物プランクトンの異常増殖による淡水赤潮が発生するなど、水質の悪化が問題となりました。

そのため、平成6年に湖沼水質保全特別措置法による指定湖沼に指定され、5期25年にわたり水質保全計画を策定し浄化対策を行ってきました。水質保全の取組により、淡水赤潮の発生は見られなくなり、水質も改善されましたが、化学的酸素要求量（COD）※175%値※2については環境基準※3の達成に至っておらず、より一層の取組が求められています。



〈野尻湖の流域〉

水系名	一級河川 関川
湖面積	4.55 km ² (湖岸線延長 13.6 km)
貯水量	95,676 千 m ³
水深	平均：20.8 m 最大：38.3 m
滞留時間	738 日
湖面標高	656.8 m
流入河川	11 河川
流出河川	1 河川 (池尻川)
流域面積	12.9 km ² (直接流域) 185.3 km ² (間接流域を含む)
流域人口	0.7 千人 (直接流域) 1.1 千人 (間接流域)
流域内市町村	信濃町、長野市、新潟県妙高市

〈諸元〉

※1 水中の汚濁物質を化学的に酸化分解するのに要する酸素量で、湖沼の汚濁を示す指標。

※2 年間の測定データを小さいものから並べたときのデータ数×0.75 番目の値のことで、CODの環境基準の適否の判定に用いる。

※3 環境基本法で「人の健康を保ち生活環境を保全する上で、維持されることが望ましい」とされている基準。

野尻湖のめざす姿（長期ビジョン）

野尻湖が担う3つのはたらき “湖や流域が豊かな自然を育む” “湖に親しみ、学び、癒し、憩う” “湖に関わる人々に持続的な恵みをもたらす” による恩恵を将来にわたって享受できるよう、『みんなの野尻湖 美しい姿を次世代に』をキャッチフレーズとして、野尻湖の望ましい将来像の達成を目指します。

長期ビジョンを達成するためには、地域の皆さま、事業者そして行政が一体となって行動し、取り組んでいく必要があります。

日々、家庭や地域、職場などにおいて、わたしたちにできる身近な行動から、野尻湖の水環境に配慮した生活を実践していきましょう。

調理くず、食べ残り、油は回収し、流さないようにしましょう。

ゴミはポイ捨てせず持ち帰りましょう。

灯油等の取扱いにあたっては、漏洩のないように十分注意しましょう。

清掃活動や水草復元の活動など、水環境保全の取組・活動に積極的に参加しましょう。

野尻湖に係る湖沿水質保全計画（第6期）の概要

長期ビジョンの実現に向けて一層の浄化を図るため、令和元年度から令和5年度までを計画期間とする第6期の水質保全計画を策定しました。概要は以下のとおりです。

～第6期計画の方針～

《計画期間》 平成元年度から令和5年度までの5年間

《水質目標》

項目	現状（平成30年度）	水質目標（令和5年度）	環境基準
化学的酸素要求量（COD）75%値(mg/L)	2.1	2.0	1.0
全りん（年平均値）(mg/L)	0.005	0.005(現状水準の維持・向上)	0.005
湖心透明度（年平均値）(m)	6.2	6.5	—

～計画期間中の主な取組～

生活排水対策

- 信濃町全体における生活排水施設整備率を75%に向上させるとともに、直接流域における下水道及び農業集落排水施設への接続率の合計90%を目指します。

流出水対策

- 降雨に伴い市街地等から流出する汚濁負荷を削減するため、住宅及び事業場における雨水浸透ますの設置や緑化を推進するとともに、地域住民の清掃活動等を支援します。
- 流域で営農している農業者に対し適正施肥等に係る技術指導を行うとともに、エコファーマーの認定など、各種制度の普及を図り、環境にやさしい農業の地域ぐるみの取組を推進します。
- 森林等の自然地域の持つ多面的な機能を高度に発揮させるため、今後必要に応じて間伐等の維持管理に努めます。

調査研究の推進と活用

- 水草復元の兆しが見られることから、引き続き水草の生育状況についてモニタリングを実施するとともに、野尻湖における水生植物のあり方等に関する研究を進めます。

環境学習の推進、環境保全意識の啓発

- 野尻湖クリーンラリー等、環境学習を一層推進します。
- 魅力的な自然体験プランの設定と情報発信により、野尻湖の特性を活かしたエコツーリズムを推進し、環境保全意識の向上を図ります。
- 湖辺の景観保全を含む様々な環境保全活動を支援します。